



バレーボールのまち貝塚

あ た つ く

発行：貝塚市・貝塚市教育委員会

事務局：教育部 社会体育課

TEL：072-433-7121

FAX：072-433-7122

E-Mail：shakaitaiku@city.kaizuka.lg.jp

2007年（平成19年）4月5日発行

平成18年秋に開催された4年に1度の世界選手権である「2006世界バレー」において、JVA貝塚ナショナルトレーニングセンター（以下「貝塚トレセン」）で合宿を行った全日本女子バレーボールチームは、メダルを逃したものの6位と健闘しました。また、全日本男子バレーボールチームも8位に入賞し、多くの市民に元気と感動をもたらしてくれました。



また、将来の全日本選手を目指す女子中学生のバレーボールアカデミーNTドリームスは、「第9回全国ヤングバレーボールクラブ交流大会」において2年目の出場で初優勝しました。

本年6月開催される世界ユース女子選手権大会の全日本ユースナショナルチーム代表候補にNTドリームスから田村紗由里さん、濱野安希子さんの2名が選出されました。

貝塚トレセン指導者の協力のもと、小学生バレーボール教室の開催や、全日本女子バレーボールチームの市長への表敬訪問、公開練習、紅白試合、世界バレーに向けた壮行会が行われました。また、各種市民団体により構成された実行委員会が、全国都道府県対抗中学バレーボール大会の運営をサポートしました。満18歳以上の市民を対象に実施した市民意識調査では、市のイメージとして、「バレーボールのまち」が「水間寺」「二色の浜公園」に次ぐ第3位にランクされました。また、すべての年代において、1割程度の市民の方々が、バレーボールのまちを市のイメージとして持っています。



このようにバレーボールを通じたまちづくりをすすめています。平成19年度は、トレーニングセンターへの支援を更に充実し、全日本女子チームによる公開練習や小・中学校での講演会などを行い、バレーボールの普及に努めていきます。更に、「全国都道府県対抗中学バレーボール大会」そして、小学生バレーボール教室の開催など、市民が一丸となって一層のバレーボールのまちの推進と全国への情報発信に取り組んでいきます。

バレーボールで心の階段を

バレーボール教室は、小学5・6年生を対象に前期・後期・補講の年間23回実施しました。平成19年度は、1年を通してほし望からの1期・2期・3期の実施となります。教室への参加動機は、「友達に誘われて」「親にすすめられて」「スポーツがしたかった」が多く、バレーボールの初心者者がほとんどでした。教室は、準備体操から始まり、ランニングをしたり、ボールを股の間から投げ、走って取りに行ったり、ボールを持ちながらジャンプ・ダッシュをしたりと毎回メニューが違います。体がほぐれた後、壁を使ったりネットを挟んでレシーブ・トス・サーブなどの個人練習をします。サーブは、5年生のほとんどが最初は入らなかつたのですが、先生の指導ですぐに上手になりました。少しずつレベルアップする内容なので初心者が多い5年生は、



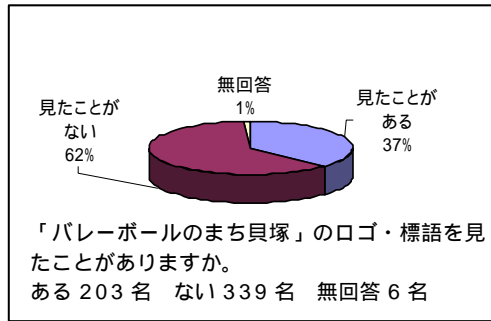
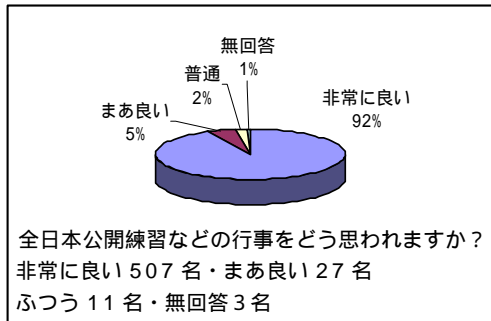
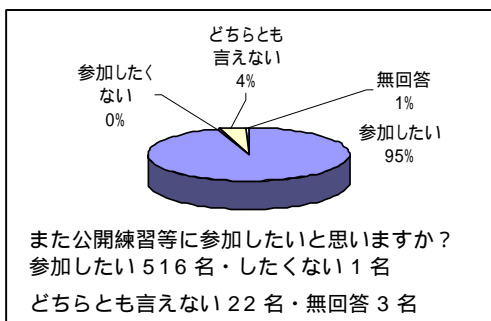
「次回はどんな練習をするのかな」とわくわくドキドキの6年生は、2年目なのでのみこみが早く、自分の悪い癖を見つかり、よりレベルアップを図っていました。

前期の後半からチーム対抗でゲームをしました。1試合目はぎこちなく、サーブだけで終わることが何度もありましたが、2試合目・3試合目になると6年生を中心に、チームワークが良くなってきました。後期のゲームになると、レシーブ・トス・スパイクと上手に決まり、接戦でなかなか試合が決まりません。

バレーボールのまち貝塚 アンケート集計結果

平成18年8月1日（火）の全日本女子バレーボールチーム公開練習開催時に実施したアンケートは次のとおり、有効回答数は548名でした。この中で、「バレーボールのまち貝塚」のロゴ・標語の認知度は低く、今後更なる普及の必要性を痛感しました。「公開練習についてどう感じるか、また参加したいですか」との質問に対しては、9割を超える高評価をいただきました。また、今後の要望として、全日本選手によるバレーボール教室や交流会、握手会、サイン会、Vリーグの開催など多数ご意見をいただきました。今後このアンケートでのご意見を参考に、全日本バレーボールチームの協力のもと、「バレーボールのまち貝塚」

「来て楽しかった」「先生が優しかった」「練習全部が楽しかった」という感想以外に、「プロの選手になりたい」「バレーボールの大会に出たい」という夢までが語られています。子ども達は、バレーボールの能力を身につけるだけでなく、心の階段ものぼったようです。



この冊子は、三万五千部作成し一部あたり五〇二円で作られています。

第20回全国都道府県対抗中学バレーボール大会

期間:平成18年12月24日(日)~27日(水)

会場:大阪市中央体育館、舞洲アリーナ、貝塚市立総合体育館

将来のオリンピック選手の発掘と中学生バレーボールのレベルアップを図り、各チームとの交流を通して友情を深め、スポーツマンシップの高揚に努めるとともに、中学生指導者の研修の場とすることを目的としたこの大会は、昭和62年より開催されています。この大会は、全日本男子の山本隆弘選手(第7回出場)や、越川優選手(第13回出場)、女子の菅山かおる選手(第7回出場)や荒木絵里香選手(第13回)などの有名選手を輩出している非常に歴史のある大会です。都道府県代表男女各47チーム、開催地代表(大阪)男女1チーム、(財)日本バレーボール協会より特別に推薦されたチーム(NTドリーム



貝塚大会

ス)の男子48チーム、女子49チーム、合計97チームで競われました。

貝塚大会

貝塚市では、女子決勝トーナメント2回戦、準々決勝(3回戦)の12試合が平成18年12月26日(火)午前9時30分から午後4時30分まで行われました。

大会会場では、豚汁・コーヒー等の無料サービスコーナー、市内企業による特産物、貝塚でしか手に入らない「ベスト16進出記念のタオル」の販売などを行いました。また、来賓した全チームへ手作りの「しあわせ貝」を贈呈しました。

当日は、悪天候にも関わらず、選手とその関係者、そして応援団など1200人が会場を訪れました。豚汁は約1000杯、コーヒーは約1500杯と多くの利用があり、また、実行委員会で販売した「ベスト16進出記念のタオル」は、販売開始から約10分で500枚を完売、市内企業による「水ナス」や「つげ櫛」・「バレーボールもなか」などの特産物の販売も大盛況でした。利用者からは、「こんな暖かいサービスをしていただき非常にありがたい」、「特産物がいいおみやげになる」などの数多くの喜びの声が聞かれました。今回の大会では東京が優勝しました。東京は、大変安

定したチームで、ブロックが高く、フェイントやライン際をねらった難しいボールも正確にレシーブし、トス・アタックとうまくつながった攻撃が出来るチームでした。ほとんどの選手が身長170cmを超えているということもあり非常に迫力のあるチームで、中学生の試合を見ているとは思えないほどでした。アタックが決まった時に、全員でジャンプしてガッツポーズする姿が印象に残りました。

各チームの応援団も特色がありました。話をうかがうと、応援団は選手の家族だけでなく選手の出身の学校の人たちにより構成されているチームもありました。山形県は、はっぴ姿で花笠を使った応援、大分県は、竹の棒を使用して応援するなど、各応援団によって特徴があり応援しているチームが得点すると大歓声があがり、失点を

貝塚会場で行われた全試合結果

第一試合	埼玉0	2長崎
第二試合	兵庫1	2愛媛
第三試合	茨城0	2大分
第四試合	山口0	2福岡
第五試合	山形1	2大分
第六試合	福井2	1三重
第七試合	東京2	0和歌山
第八試合	京都0	2岡山
第九試合	広島1	2長崎
第十試合	愛媛0	2福岡
第十一試合	東京2	0大分
第十二試合	福井2	0岡山



実行委員会による歓迎



応援団による応援


NTドリームス結果

予選第16組

1位	兵庫	2勝
2位	岩手	1勝1敗
3位	NTドリームス	1勝1敗
4位	富山	2敗

男子の部 第3位 大阪南選抜

志賀 亮 選手(第一中学校)にインタビュー



Q.バレーを始めたきっかけは。

中学1年のときに兄の影響でバレーボールをはじめました。

Q.普段はどこで練習していますか。

堺のジュニアブレイザーズで活動しています。

Q.大会に出場してみてどうでしたか。

大阪南選抜でセンターとして出場し、結果第3位でした。どのチームもレベルが高く、油断するとすぐに得点をきめられてしまいました。準決勝で対戦した長崎は、スパイクを何度打ってもレシーブされてしまうとても強いチームでした。

Q.高校はどちらに進学されますか。

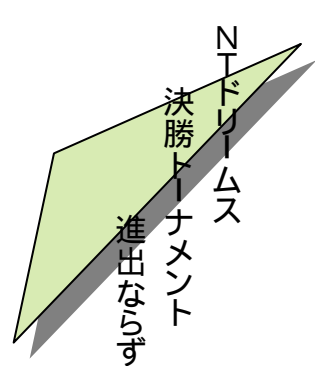
清風高校への進学が決まっています。明日からバレーボール部の練習に参加します。

Q.将来の目標は。

堺ブレイザーズで活躍できるような選手になりたいです。

「平成19年3月14日(水)の第一中学校卒業式で取材」

NTドリームスは、予選ブロックで岩手県代表と対戦しました。この試合では、第1セット序盤からサービスエースを2本連続で決められるなど、終始岩手県代表ベイスで試合は進み、25対18で第1セットをとられました。第2セットは、序盤からリードするものの、ネットにかかったボールが自陣に落



ちてしまったりと不運も重なり25対21で惜敗。この結果20となってしまいました。続く25日は、富山県代表と対戦し1セット目は、一進一退の攻防で健闘したものの25対21で競り負けてしまいました。2セット目は、25対11で大勝。3セット目は25対20で快勝し逆転勝ちとなったものの、1セット目を失ったのがひびき、セット率で決勝トーナメント進出を逃してしまいました。今回の大会では、前評判が良かったが、本来の実力を発揮できないプレーが目立ちました。平成19年度の大会では、活躍を期待します。

バレーボールアカデミー
NTドリームス発表会



NTドリームスメンバー

選手の紹介が行われました。式典終了後に、練習及び紅白戦が披露されました。まだあどけなさの残る彼女たちが、ひたむきにバレーボールに取り組み姿に、感動を得るとともに今後の活躍を大きく期待させるものでした。

第9回全国ヤングバレーボールクラブ交流大会 NTドリームス初優勝!!

NTドリームスが平成18年9月16日(土)〜17日(日)に大阪府立門真スポーツセンター(なみはやドーム)で開催された第9回全国ヤングバレーボールクラブ交流大会(U-14の部)で見事初優勝を飾り、キャプテンの田村紗有里さんは女子最高殊勲選手に選ばれました。

豊田総監督、阪本監督が育てたドリームスは、サーブ・レシーブが良く高さを生かしたブロックもよく決まり、

平成18年4月8日(土)貝塚トレセンにおいて、平成18年度バレーボールアカデミーNTドリームス発表会が開催されました。開催に先立ち、日本バレーボール協会萩原常務理事より、出席者に対する感謝の意が述べられ、貝塚市查援助役、第二中学校藤並校長より歓迎の言葉が述べられました。続いて、NTドリームス豊田総監督より今年度の練習計画等についての発表、大会での具体的な目標について示され、1期生6名と2期生8名の14名の

NTドリームス第2期卒業生を送る会

平成19年3月10日(土)貝塚市職員会館において、貝塚市関係者、日本バレーボール協会関係者、NTドリームス保護者等約70名が出席し開催されました。



第2期卒業生6名

NTドリームス第2期卒業生6名は、いずれもスポーツ推薦により高校への進学が決まっています。卒業生から、「今日の送る会を開催してもらい本当にありがとうございます。貝塚に来たときは、本当に不安なことばかりでしたが、貝塚市の人たち、第二中学校の皆さんに本当に暖かく見守っていただいていたことがたかたかです。そのおかげで今の自分があると思います。今年の全国都道府県対抗中学バレーボール大会は残念な結果に終わってしまったけど、来年は私たちの分まで活躍したい結果を残してほしいです。これからは、先生方に教えていただいたことを思い出しながら、高校での練習に励んでいきたいです。」と感謝と今後の決意が語られました。また、在校生から卒業生へ歌が贈られ、歌の途中で卒業生・在校生が目を潤ませる光景もあり、会場全体が感動的な雰囲気に包まれました。

強烈なスパイクとクイックなどで得点を重ねました。

平成17年の大会では、強烈なスパイクやブロックなどが随所に決まるものの、サーブ・レシーブが悪く、実戦経験のなさが露呈した大会でしたが、今大会は、技術が飛躍的に向上し、2回目の出場

で優勝を勝ち取りました。ドリームスの今後の成長を大きく期待させる結果となりました。

NTドリームスを支える市民の動き

市民交流会の開催

平成18年11月5日(日)、第9回全国ヤングバレーボールクラブ交流大会での優勝を祝うとともに、全国都道府



市民交流会

県対抗中学バレーボール大会での活躍を祈念して、バレーボール連盟の皆さんを中心とした市民により、NTドリームスを励ます市民交流会が開催されました。ほの字の里(貝塚市蕎原)においてバーベキューパーティーが行われ和やかなムードの中で、親睦を深めました。

また、パーティーののち市内観光が行われ、バレーボールをしているときの真剣な表情とは違う笑顔の絶えない中学生らしい一面を見せてくれました。

市役所バレーボール部との交流会

平成18年8月16日(水)市役所バレーボール部員との交流会が開催されました。これは、NTドリームスのことをもっとよく知りたいという市役所バレーボール部員からの要望があり開催されたものです。試合は、言うまでもなくNTドリームスの勝利となりましたが、楽しい交流会となりました。また、交流会後は食事会が行われ、ドリームスメンバーの出身



市役所バレーボール部との交流会

地の話や学校での生活など楽しい話で盛り上がりました。最後は、全員での記念撮影で、ドリームスの活躍を願っていました。

自転車の寄贈

日本バレーボールチームが貝塚トレセンで合宿を行う際、NTドリームスはトレーニングセンターを使用できなくなり、その間の練習場所として、総合体育館等を使用しています。しかし、練習場所への移動手段が歩かなく困っていました。この実情を知った市職員サポーターズクラブでは、市職員に対し自転車の寄付を呼びかけ、貝塚トレセンに自転車18台寄贈いたしました。



自転車寄贈式

田村 翔子さん

NTドリームスの練習は、世界を知る先生方に指導いただき貴重なことと感じています。基礎からしっかりと教えていただいたので、出来なかつたこともできるようになりました。キャプテンとして皆を引っ張っていくという責任もあつたので、精神的にも強くなれたと思います。学校では、暖かく迎えてくれ辛いときも支えてくれ本当に感謝しています。明るくにぎやかな人はかりで、本当にいい思い出いっぱいあります。現在は、ドリームス時代とは違いセンターをやっています。春の高校バレーボール大会の出場も決まったので、応援よろしくお願いします。

石間小百合さん

NTドリームスの練習は、短時間集中でたくさんさんのパリエーションがありやりがいごともありました。たくさん怒られたりしましたが、たくさん学ぶことができました。また、学校生活も気軽に話しかけてくれるし、何でも相談できるいい友達を沢山作ることができ楽しかったです。先生もドリームスのことをよく理解し、応援してくれてうれしかったです。お弁当サポーターの人達にも本当に感謝しています。

NTドリームス 1期卒業生の現在

NTドリームスを1期生として、昨年卒業した4名は、進学先でバレーボール部に所属し頑張っています。彼女たちのNTドリームス時代の思い出や近況を報告してくれたので紹介します。



第1期NTドリームス卒業生

北川祐子さん

NTドリームスの練習は、厳しい練習の中にも楽しくやる練習が少しあったので、いやになったことはないです。自分がやったことのない練習ばかりで不安もたくさんありましたが、やっているうちにコツをつかんだりしていました。

学校では、最初は不安が多かったけど、先生も友達もいい人ばかりで楽しかったです。体育大会や合唱コンクールは、いい思い出になりました。現在は、全国大会出場に向け日々練習に励んでいます。2年生が1人しかいなく、1年中心のチームですが、上を目指してがんばっています。毎日とても充実しています。

森 由湖さん

ドリームスの練習は、本当に厳しかったし、辛い事もたくさんありました。でも、他のメンバーたちに支えられ、楽しく練習できたと思います。今でもドリームスで学んだことを思い出しながらバレーボールを続けています。

学校でも、たくさん話しかけてくれる子がいてよかったです。言葉には、びっくりました。やさしい子が多く楽しかったです。今年、春の高校バレーボール大会への切符を手に入れることができました。来年は出場できるように頑張りたいです。

全日本女子 バレーボールチーム



全日本女子バレーボールチーム公開練習

柳本ジャパン 表敬訪問

平成18年5月30日(火)に、全日本女子バレーボールチームが、貝塚市を表敬訪問しました。多くのマスコミも駆けつけました。表敬訪問の中で、柳本監督は、世界選手権「2006世界バレー」でメダル獲得を目指すチームづくりについての抱負、2008北京オリンピックにむけた方向性を語られました。

続いて、竹下キャプテンが

世界バレーでの活躍を力強く誓われ、貝塚市長へ全日本女子チームのサインボールが贈呈されました。



全日本女子チーム表敬訪問

公開練習

平成18年8月1日(火)午後3時から総合体育館において公開練習が開催されました。気温33度を超える猛暑の中、また平日の午後3時という時間にも関わらず、早くから観客が体育館の周りに行列をつくり約1000人が観戦しました。

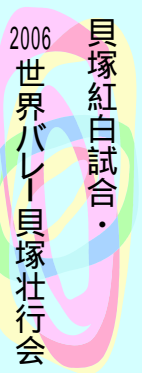
公開練習に先立ち、市長からの歓迎の言葉があり、列席者紹介に続いて、柳本監督、竹下キャプテンに花束、記念品を贈呈しました。柳本監督から謝辞が述べられ、ユニホームの後ろのネームがニックネームで表示されるようになったとの報告がありました。

公開練習は、各選手の柔軟体操に始まり、2人1組になつてのスパイクとレシーブの基本練習が行われました。次に柳本監督が遠くへボールを投げ、選手がダッシュしてボールを追いかけ捕球する、回転レシーブなどを披露して観客から大喝采がおくられました。最後に紅白2組に別れ練習試合が披露されました。サーブ、レシーブ、アタック、ブロックなど全日本選手の見せる1つ1つのプレーに大きな歓声、拍手が起こり、盛り上がりました。

また、市内中学バレーボール部員の皆さんが、ボール拾いやモップ掛けでサポートしました。



「ジャンボ日の丸」応援メッセージ書込みコーナー



平成18年10月10日(火)午後5時30分から総合体育館において紅白試合が開催されました。「2006世界バレー」直前の紅白戦ということもあり、体育館収容人員の限界ぎりぎりの約2000人の観客が訪れました。またこの日は、世界バレーの放映権を持つ

を投げ、選手がダッシュしてボールを追いかけ捕球する、回転レシーブなどを披露して観客から大喝采がおくられました。最後に紅白2組に別れ練習試合が披露されました。サーブ、レシーブ、アタック、ブロックなど全日本選手の見せる1つ1つのプレーに大きな歓声、拍手が起こり、盛り上がりました。

また、市内中学バレーボール部員の皆さんが、ボール拾いやモップ掛けでサポートしました。

2006 世界バレー

女子		男子	
優勝	ロシア	優勝	ブラジル
2位	ブラジル	2位	ポーランド
3位	セルビア・モンテネグロ	3位	ブルガリア
4位	イタリア	4位	セルビア・モンテネグロ
5位	中国	5位	イタリア
6位	日本	6位	フランス
7位	キューバ	7位	ロシア
8位	オランダ	8位	日本

4年に1度の世界選手権である「2006世界バレー」は、24チームを4組に分けた第1ラウンドが平成18年10月31日(火)東京代々木体育館等で開幕されました。

A組の日本は、初戦台湾と対戦。第1セットを先取したものの、初戦の緊張からか、続くセットでサーブレシーブが乱れ連続失点するなど、持ち前のつなぐバレーが崩れ3対1とまさかの逆転負けを喫し、対台湾戦15連勝がストップしてしまいました。苦しいスタートとなりましたが、第2戦コスタリカ、第3戦のケニアをいずれもストレートで下し、調子を上げていきました。そして、4戦目はライバルの韓国との対戦。2セット目こそ奪われたものの、高橋のアタック、杉山のブロック、小山のバックアタックなどで効果的に得点し、3対1で勝利しました。

TBSが世界バレー会場で使用される「ジャンボ日の丸」の応援メッセージ書込みコーナーが設けられました。

紅白試合は、2セットマッチで行われ、力のこもった紅白戦が展開されました。

また、紅白戦終了後、世界バレーにむけての貝塚壮行会が開催され、選手の間には、大会への意気込み、活躍を誓いました。

第2セットは奪われてしまいます。しかし、第3、4セットと日本らしいバレーを展開し、3対1で勝利しました。3戦目は、開幕7連勝と勢いのあるセルビア・モンテネグロとの対戦。第1、2セットを簡単に奪われてしまい、このままいくとメダル獲得の望みが絶たれてしまう窮地に追い込まれました。しかし、ここから日本の逆

戦を繰り上げました。

日本の初戦は、キューバとの対戦。第1セットを先取しましたが、続く第2、3、4セットとキューバの強烈なサーブやスパイクに主導権を握られ、善戦したものの3対1で惨敗となりました。2戦目はトルコとの対戦。第1セットはデュースにもつれこむ接戦に勝利し、勢いづくかに思えましたが、第2セットは奪われてしまいます。しかし、第3、4セットと日本らしいバレーを展開し、3対1で勝利しました。3戦目は、開幕7連勝と勢いのあるセルビア・モンテネグロとの対戦。第1、2セットを簡単に奪われてしまい、このままいくとメダル獲得の望みが絶たれてしまう窮地に追い込まれました。しかし、ここから日本の逆

襲が始まります。日本持ち前の拾ってつなぐ、変化とスピドバレーが復活し、大逆転勝利をおさめました。続く、4戦目は前回の覇者イタリアとの対戦。しかし、力及ばずストレート負けを喫し、1〜4位決定戦への切符を失ってしまいました。



2006 世界バレー

11月8日(水)名古屋国立総合体育館等で、第2次ラウンドがスタートしました。16チームが2組に分かれて激戦を繰り上げました。

日本の初戦は、キューバとの対戦。第1セットを先取しましたが、続く第2、3、4セットとキューバの強烈なサーブやスパイクに主導権を握られ、善戦したものの3対1で惨敗となりました。2戦目はトルコとの対戦。第1セットはデュースにもつれこむ接戦に勝利し、勢いづくかに思えましたが、第2セットは奪われてしまいます。しかし、第3、4セットと日本らしいバレーを展開し、3対1で勝利しました。3戦目は、開幕7連勝と勢いのあるセルビア・モンテネグロとの対戦。第1、2セットを簡単に奪われてしまい、このままいくとメダル獲得の望みが絶たれてしまう窮地に追い込まれました。しかし、ここから日本の逆

11月15日(水)から大阪中央体育館および大阪府立体育館で、12チームによる決勝ラウンドが開催されました。5〜8位決定戦に進んだ日本は、平均身長が9cmも上回る高さを生かしたオランダのバレーに対抗し、菅山を中心として随所に好プレーを見せ、3対1と快勝しました。柳本監督のガッツポーズも印象的でした。続く5、6位決定戦では、世界ランキング1位の強豪中国の壁は厚くストレートで敗れてしまい結果6位で大会を終えました。